

8. 国際交流

① 外国人研究者、来訪者の受入れ状況

受入期間	氏名	国名・所属機関・職名	目的
平成 26 年 5 月 25 日～ 5 月 31 日	GONG Haiyan	中国・上海獣医学研究所・副研究員	マダニとマダニ媒介原虫感染症に関するセミナーと研究打ち合わせ
平成 26 年 5 月 25 日～ 5 月 31 日	CAO Jie	中国・上海獣医学研究所・副研究員	マダニとマダニ媒介原虫感染症に関するセミナーと研究打ち合わせ
平成 26 年 8 月 15 日～ 9 月 15 日	李 瑋 群	台湾・中興大学獣医学科・大学院生	寄生虫の研究技術の習得、学会等への参加
平成 26 年 9 月 2 日	Tanu Pinyopummintr	タイ・Kasetsart University	原虫病研究センター施設見学
平成 26 年 9 月 8 日	アセル	キルギス共和国・キルギス農学大学・国際部長	原虫病研究センター施設見学
平成 26 年 10 月 21 日	László Fodor	ハンガリー・セント・イシュトバーン大学	施設見学
平成 26 年 11 月 1 日～ 11 月 21 日	王 桂花	中国・山東農業大学獣医学部・講師	JSTさくらサイエンスプランによる短期インターンシップ
平成 26 年 11 月 5 日	Joachim Braun	ドイツ・Ludwig Maximilian University of Munich・教授、EAEVE副会長	獣医学教育の欧州認証取得のため、EAEVE(欧州獣医学教育確立協会)現副会長のドイツ・ミュンヘン大学ブラウン教授に認証取得に向けての予備的調査を行っていただき、改善点などを指摘していただく。その一環で原虫病研究センターの施設紹介ならびに見学を実施した

外国人研究者、来訪者の受入れ状況・続き

受入期間	氏名	国名・所属機関・職名	目的
平成 26 年 11 月 10 日	Alfonso Torres, D.V.M.,	米国・コーネル大学獣 医学部・教授 副学部 長	コーネル大学獣医学部のアル フォンソ・トーレス副学部長が 帯広畜産大学を訪れ、平成 27 年度から本格的にスタートす る国際共同研究、教育交流等 の内容について協議し、帯広 畜産大学の教育研究活動の 状況を視察した。その一環と して原虫病研究センターの施設 紹介と見学を実施した。
平成 26 年 11 月 13 日～ 11 月 14 日	Marcin Tomasz Jakalski	ドイツ・University of Muenster	原虫ゲノム解析に関する打ち 合わせ
平成 26 年 11 月 16 日～ 2 月 27 日	Nilukshi Liyanagunawardena	スリランカ・Veterinary Research Institute, Sri Lanka	原虫病感染症の分子診断の 研修
平成 26 年 11 月 30 日～ 12 月 2 日	具 潤 景 Goo Young-kyoung	韓国・慶北大学医学部 寄生虫学・熱帯医学研 究室・助教	大学院(畜産衛生学専攻)特 別講義を行った
平成 27 年 1 月 19 日～ 2 月 5 日	PARK SUJIN	韓国・慶尚大学獣医学 部・4 年生	インターンシップ(分子生物学 の実験見学)
平成 27 年 1 月 19 日～ 2 月 5 日	KIM HANNAN	韓国・慶尚大学獣医学 部・4 年生	インターンシップ(分子生物学 の実験見学)
平成 27 年 1 月 20 日～ 2 月 3 日	Punsantsogvoo Myagmarsuren	モンゴル・モンゴル国 立獣医学研究所分子 遺伝学研究室・室長	JST-JICA SATREPS プロジェ クトに関する共同研究のため。
平成 27 年 1 月 20 日～ 2 月 3 日	Batsaikhan Enkhtaivan	モンゴル・モンゴル国 立獣医学研究所・分子 遺伝学研究室 研究 員	JST-JICA SATREPS プロジェ クトに関する共同研究のため。
平成 27 年 2 月 23 日～ 3 月 9 日	Khandsuren Naranbaatar	モンゴル・モンゴル国 立獣医学研究所・分子 遺伝学研究室・研究員	JST-JICA SATREPS プロジェ クトに関する共同研究のため。
平成 27 年 2 月 23 日～ 3 月 9 日	Bayasgalan Mungun-Ochir	モンゴル・モンゴル国 立獣医学研究所・病理 学研究室・研究員	JST-JICA SATREPS プロジェ クトに関する共同研究のため。

② JICA研修コース

コース名称:原虫病および食品媒介感染症上級専門家育成

受入期間:平成 26 年 10 月 22 日 ~ 平成 27 年 8 月 21 日

研修生情報

国籍	氏名	現職
ベトナム	LE Ha Tam Duong	ホーチミン市パスツール研究所

使用言語:英語

コースの背景と目的

世界の人口は、21 世紀半ばに現在の約 1.5 倍(90 億人)に達すると見込まれるが、特に新興国・開発途上国では、未来の動物性蛋白質の安全確保のため、家畜感染症による食料生産阻害の現状を早急に打開することが懸案となっている。一方、これら感染症のほとんどは人獣共通感染症で、食料問題のみならず、直接に人々の健康並びに安全な社会活動を脅かしている。途上国では、これら感染症のコントロールを国際社会と協調して実践する高度専門家の育成が喫緊の課題となっている。先の G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言においても、マラリア等感染症の診断、ワクチン、治療薬の開発研究や公衆衛生上の問題に対処するための開発途上国の能力開発支援を強化することが提唱されている。また、世界 178 ヶ国が加盟して家畜と畜産品の安全・安心確保を目指す国際機関「国際獣疫事務局(OIE)」では、世界最先端の感染症研究組織をコラボレーティングセンターとして認定し、当該組織の研究成果を新たな感染症診断法やワクチンの国際標準化に活用している。近年、OIE においても、開発途上国における感染症診断技術、公衆衛生の向上を図るため、コラボレーティングセンターの開発途上国に対する貢献を重要視しており、平成 20 年 5 月にアジアで初めて OIE に認定された本センターにも大きな期待が寄せられている。

本 JICA コースでは、教員等のスタッフと研究設備が整った本センターにおいて、人畜共通感染症の制圧に携わる途上国専門家が、感染症対策に直接関連した予防・診断・治療技術とその実践に役立つ周辺専門知識を習得し、途上国での人畜共通感染症の予防・診断・治療技術の質が向上することを目的とする。

研修方法

研修員は、技術研修冒頭において、導入共通科目として、人畜共通感染症、原虫病、細菌性感染症、ウイルス性感染症、食物が媒介する感染症、実験器具や実験動物の取扱い、血清診断の基本について学ぶ。その後、各研究分野のいずれかにて、個別に指導教員の指導のもと、先端研究技術を習得する。1ヶ月に2回ほど、本センター教員に加えて、学内外研究機関の専門家による、原虫病、細菌性感染症、ウイルス性感染症関連の特別講義も提供する。

研修員の評価等

インセプションレポート(初期報告書)発表会

本コースの初期に、研修員の母国における人畜共通感染症の現状およびそれらが引き起こす問題を把握するため、研修員によるインセプションレポートの発表会を行う。

中間レポート発表会

本コースの中間期において、研究の進捗についてまとめて発表を行う。

インテリムレポート

同報告書は、研究成果をまとめた論文形式のものと帰国後に研修で得た知識やスキルが、自国の感染症対策の問題点の解決にどのように寄与し得るかまとめたエッセイの2つから成る。研修員はコース終了時にファイナルレポート発表会で同レポートの発表を行う。

マンスリーレポート

毎月の研究進捗状況に関するレポートを提出する。

③ 教員の海外派遣状況

期 間	職 名・氏 名	渡 航 先 (国 名)	目 的
2014年4月6日～12日	教授 河津 信一郎	フィリピン	フィリピンにおける日本住血吸虫症の血清および疫学調査についてフィールド調査、打ち合わせ
2014年5月14日～19日	教授 横山 直明	スリランカ	家畜原虫病の調査に関する研究打ち合わせ
2014年5月23日～27日	教授 井上 昇	タイ	学術交流同意書の締結
2014年5月23日～27日	教授 五十嵐 郁男	タイ	学術交流同意書の締結
2014年5月23日～29日	准教授 西川 義文	インドネシア	サムトランギ大学医学部 TUDA JOSEF 博士との研究打ち合わせ
2014年6月10日～14日	教授 鈴木 宏志	中国	International Medical Device Exhibition 2014 (情報調査)
2014年6月21日～29日	教授 玄 学南	エジプト	Ahmed 氏の学院論文審査会への参加とマダニ媒介原虫感染症に関する研究打ち合わせ
2014年7月4日～19日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS プロジェクトでの家畜原虫病疫学調査
2014年7月18日～25日	教授 鈴木 宏志	アメリカ	SSR 47th Annual Meeting 発表
2014年7月27日～ 8月6日	教授 玄 学南	中国	マダニ媒介感染症の疫学調査
2014年7月27日～ 8月6日	教授 鈴木 宏志	中国	マダニ媒介原虫感染症に関する研究打ち合わせ
2014年7月30日～ 8月15日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS プロジェクトでの家畜原虫病疫学調査
2014年7月30日～ 8月15日	准教授 五十嵐 慎	モンゴル	調査研究
2014年8月1日～9日	教授 横山 直明	スリランカ	スリランカにおける家畜原虫病の調査
2014年9月20日～27日	教授 河津 信一郎	フィリピン	日本住血吸虫症の疫学調査、研究合せ
2014年9月28日～ 10月5日	教授 五十嵐 郁男	ドイツ	第18回日独原虫病シンポジウム参加
2014年9月28日～ 10月5日	教授 井上 昇	ドイツ	第18回日独原虫病シンポジウム参加及び参加研究者との研究打ち合わせ

教員の海外派遣状況・続き

期 間	職 名・氏 名	渡航先(国名)	目 的
2014年9月29日～ 10月5日	教授 鈴木 宏志	ドイツ	第18回日独原虫病シンポジウム発表
2014年10月13日～ 24日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS オープニングセレモニー開催、第一回 SATREPS 学術セミナー開催ならびにザブハン県、ゴビアルタイ県、バヤンホンゴル県での家畜原虫病疫学調査
2014年10月13日～ 24日	教授 横山 直明	モンゴル	モンゴルにおける家畜原虫病の調査、準備、会議
2014年11月2日～6日	教授 河津 信一郎	アメリカ	第63回国熱帯医学会(ASTMH)
2014年11月7日～9日	教授 河津 信一郎	アメリカ	寄生虫抗酸化タンパク質抗原に関する研究打合わせ
2014年11月28日～ 12月1日	教授 河津 信一郎	台北	第13回アジア太平洋人獣共通寄生虫病会議(APCPZ)
2014年12月8日～19日	教授 鈴木 宏志	ケニヤ	JICA OB セミナー、試料収集、研究打ち合わせ
2014年12月8日～19日	教授 玄 学南	ケニヤ	マダニ媒介感染症の疫学調査及びNRCPD 元研究員の研究集会参加(ナイロビ)
2014年12月13日～ 18日	教授 井上 昇	ベトナム	ハノイ国立獣医学研究所の Nguyen 博士、フエ大学の Lan 准教授、フエ農業大学の Long 准教授とベトナムにおける原虫病の疫学に関する情報収集及び意見交換
2014年12月13日～ 18日	教授 横山 直明	ベトナム	ベトナムにおける家畜原虫病の調査
2015年1月4日～13日	教授 玄 学南	トルコ	Sevinc 教授と羊バベシア症の疫学調査
2015年1月10日～19日	准教授 福本 晋也	ブルキナファソ	ハマダラカサンプリング、研究打合せ
2015年1月18日～25日	教授 横山 直明	スリランカ	家畜原虫病の調査に関する研究打ち合わせ
2015年1月20日～25日	教授 五十嵐 郁男	アメリカ	イエール大学公衆衛生学部 Krause 教授とひとバベシア症の診断に関する研究打ち合わせを行った。また、セルジーン社 Vikram 博士および荒川博士とバベシア症に関する薬剤に関する研究打ち合わせを行った。

教員の海外派遣状況・続き

期 間	職 名・氏 名	渡航先(国名)	目 的
2015年2月5日～12日	准教授 西川 義文	インドネシア	サムトランギ大学医学部 Mongan Arthur 医師および動物科学部 Sri Adiani 博士との研究打ち合わせ
2015年2月16日～27日	准教授 五十嵐 慎	エジプト	学位審査会(Doaa Salman)出席
2015年2月22日～28日	教授 玄 学南	フィリピン	Adrian 准教授とマダニ媒介感染症に対する疫学調査と打合せ
2015年2月27日～ 3月7日	教授 横山 直明	スリランカ	家畜原虫病の調査に関する研究打ち合わせ、視察、報告、意見交換
2015年3月5日～13日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS プロジェクトで供与した研究機器の設置ならびにプロジェクト研究打合せ
2015年3月7日～15日	准教授 西川 義文	マレーシア	スバン家畜疾病診断センターにて、血清学診断による原虫病の調査を実施し、現地職員にセミナーとワークショップを行った
2015年3月23日～30日	教授 鈴木 宏志	タイ	研究打ち合わせ
2015年3月23日～30日	教授 玄 学南	タイ	カセサート大学 獣医学部の NPANKAEW 講師と原虫病に関する研究打合せ(24日)農務省畜産局の SARATAPHAN 主任研究員と原虫病と家畜繁殖に関する研究打合せ(25日)チェンマイ大学 獣医学部の TIWANANTHAGORN 助教授と原虫病に関する研究打合せと疫学調査(26日～28日)

④ 国際共同研究

プロジェクトタイトル: 基盤 B 海外学術 ・ フィリピンにおける日本住血吸虫症の血清
および分子疫学調査

期間: 平成 24 年から平成 26 年度

予算見込み額: 1742 万円

プロジェクト概要:

フィリピンの日本住血吸虫症について、各流行地での寄生虫のライフサイクル、流行地間での寄生虫株の異同と寄生虫病の地域特性の関係を考察するプロジェクトである。(1) 保虫宿主を対象とした血清疫学調査、および(2) 寄生虫の各発育ステージを対象とした分子疫学調査をおこなう。

プロジェクトタイトル: 基盤 B 海外学術 ・ モンゴルにおける家畜原虫病と冷害死の実
態調査

期間: 平成 25 年から平成 27 年度

予算見込み額: 1350 万円

プロジェクト概要:

極寒が家畜に与えるストレスは、疾病に対する抵抗力を低下させ生産性を著しく悪化させる。特にモンゴルでは冷害(ゾド)が基幹産業の畜産業に深刻な被害を与えている。2010 年には国内総飼養家畜の 23%(約 1,032 万頭)が冷害で斃死しており、およそ 60 億円の損失があった。本提案課題では、我々が確立した原虫病診断技術を用いて家畜原虫病のアクティブサーベイランスを実施し、慢性消耗性疾患である原虫病と家畜の冷害死との因果関係を明らかにすることを目的とする。加えて、現地で継続活用可能な原虫病の簡易診断法を構築し、現地共同研究者とともに原虫病の清浄化プログラムを考案し、人材育成と国際貢献を図る。

プロジェクトタイトル: JST/JICA SATREPS ・ モンゴルにおける家畜原虫病の疫学
調査と社会実装可能な診断法の開発

プロジェクト期間: 平成 25 年から平成 30 年度

予算見込み額: 1 億 3000 万円

プロジェクト概要:

トリパノソーマ病やピロプラズマ病等、多くの家畜原虫病は持続感染して慢性的に家畜の健康状態を悪化させる。国民の多くが畜産業に従事するモンゴルでは、特に深刻な問題となっている。本研究では、トリパノソーマ、ピロプラズマ野生株とそれらを媒介するマダニの分布マップ作成、原虫野生株の抗原遺伝子解析に基づく簡単に迅

速な診断キットを開発、そして今後の感染対策に備えた研究資源の確保を目標としている。